2 学 期	2 力と運動 1章 物体の運動 (1)平面の運動 (2)運動量と力積 3章 円運動と万有引力 (1)円運動と単振動 (2)万有引力	9 10	・物理Ⅰでは1次元の運動しか扱いませんでしたが、物理Ⅱでは2次元の運動である平面内の運動を学習します。また、その応用として運動量保存の法則を学習します。 ・ここでは加速度が一定でない運動の例として、円運動、単振動を扱います。	各单元ごとにプリントを配布します。	中 間 考 査 期 末 考 査		
	3 電気と磁気 1章 静電気 (1)電荷と静電気 (2)電界 (3)電位	11 12	・ニュートンは惑星間には常に互いに引き合う引力がはたらいっているという万有引力の法則を発見しました。このような法則が物理学の基礎を築いた事を学習していきます。 ・静電気の基本原理であるクーロンの法則を学習します。				
	【課題・提出物等】 課題や実験のレポートは期限を守って提出して下さい。						
【第2学期の評価方法】 期末考査の成績 実験のレポート、提出物の内容 学習活動への参加の態度を総合して評価します。							
3 学 期	2章 電流と回路 (1)電流 (2)回路	1	・電気と磁気の単元のまとめとして電流と回路について学びます。簡単な回路の測定等の実習も行います。	各单元ごとにプリントを配布します。	学 年 末 考 査		
	【課題・提出物等】 課題や実験のレポートは期限を守って提出して下さい。						
	【第3学期の評価方法】 学年末考査の成績 実験のレポート、提出物の内容 学習活動への参加の態度を総合して評価します。						
【年間の学習状況の評価方法】 「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4つの観点から評価した1学期の成績、2学期の成績及び3学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。							

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・「物理Ⅰ」は、他の理科の基本ともなるべき教科であり、これからの科学文明を生き抜いていくために必要不可欠な教科です。その発展科目である「物理Ⅱ」に対し、前向きな態度で授業にのぞみ、積極的に課題にチャレンジしてください。 ・教科書の内容を覚えることも大切ですが、知識のみに偏らず、問題の発見や解決能力を高めていき、実社会に役立てられるような実践力を身に付けることが最も大切です。
---------------------	---

授業を受けるに当たって守ってほしい事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業はチャイムと同時に開始しますので、教材・教具を準備し、着席を完了してください。毎時間物理実験室を利用し、移動がありますので、遅れないように注意してください。 ・ 授業中に疑問点などがあれば、授業の進行に支障を来さない範囲で、積極的に質問してください。 ・ 提出物は確実に提出してください。
---------------------	--

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」及び「知識・理解」の4つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理現象などに関心を持っているか。 ・ 身の回りにあるさまざまな問題の解決を通して、物理の考え方を主体的に活用しようと努力しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ 生徒自己評価及び生徒間相互評価
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の事物・現象の中から物理学的な立場で問題を見だし、科学の方法を適用しながら問題を解決してゆく事が出来るか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ 生徒自己評価及び生徒間相互評価 ・ ディスカッションの発言 ・ 授業の中での簡単な口頭試問
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察や実験を行い、情報を集め、推論し、検証するなどの探求の課程で用いられる科学の方法を習得する事が出来るか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ プレゼンテーション（発表） ・ 生徒自己評価及び生徒間相互評価 ・ 実技テストや習熟度の確認
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学的な自然観を育成するため、自然科学全般にわたる知識・理解が必要であるが、物理分野に関する幅広い知識・理解を養う事が出来るか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 授業の中での簡単な口頭試問

3 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義形式、個人学習、グループ学習、ディスカッションなど、さまざまな形態の学習活動を行います。また、評価は、ペーパーテストのみならず、実習への意欲や態度、プレゼンテーション（発表）、生徒の自己評価などを総合して評価します。 ・ 1年間の学習の中で、自然科学の進歩に対応できる基礎的な能力や問題解決力が身につくようになります。
--